

17. 高気圧酸素治療法と肝機能障害

三上春夫 伊東範行 野口照義
 勝本淑寛 北沢幸夫
 (千葉県救急医療センター)

【目的】 これまで肝機能障害は高気圧酸素治療法(HBO)の相対的適応とされてきた。今回センター開院以来十年間のHBO症例から肝機能検査を一定期間 follow した症例を抽出し、HBOの肝機能障害に対する適応を考察する。

【方法】 昭和55年センター開院以来のHBO施行症例から原疾患を問わずGOT・GPTが100以上に変動した例を抽出する。この中から原則として3週間以上にわたり肝機能検査が継続された症例につきHBOの影響を考察する。

【結果】 当センターにおいて昭和55年より平成1年度末までHBO施行症例は1128例であった。このうち上記基準を満たす症例は35例(3.1%)であった。原疾患の内訳は、1)クモ膜下出血10例、2)外傷による脳挫傷・脂肪塞栓9例、3)低酸素脳症・溺水・心肺蘇生後8例、4)肝疾患4例、5)その他4例であった。

1)クモ膜下出血の10例には手術または脳血管攣縮の時期の輸血による肝炎の疑われる症例が含まれる。3)では虚血性の肝障害が考えられた。

4)の肝疾患には激症肝炎・薬物(アセトアミノフェン)中毒などが含まれている。

【結語】 虚血性肝障害および肝細胞直接障害型の肝障害に対してHBOが有効と思われる症例があった。今後肝疾患に対するHBOの治療効果を判定するパラメータが必要と考えられた。

18. 術後のイレウスの高気圧酸素治療の効果

小栗 孟 北村 宏 岩瀬正紀
 大石真広

(磐田市立総合病院外科)

手術既往歴のあるイレウス症例のHBO治療の結果を検討し、その適応や治療に影響を与える因子について比較検討した。

【対象と方法】 手術既往歴がありイレウスを発症した40症例について、発症からHBOのスタートまでの日数、HBOの施行回数、排ガスが認められた日までの日数などを治療成績と比較した。

【結果】 40名のうち30名はHBOにてイレウスは解除された。その施行回数と症例数の関係は1回/10例、2回/14例、3回/1例、4回/3例、7回/1例、8回/1例でありこの平均施行回数は2.4回であった。一方、HBOスタートから排ガスの認められた日までの平均日数は1.5日であった。従ってHBO開始2~3日以内に排ガスを認めるか、レントゲン像に好転所見を認めない時には治療効果は少ないと推定された。しかし開腹手術後の回復の時期に発生したイレウス症例についてはHBOの効果の発現が遅れ排ガス開始もレントゲン所見の回復も遅延した。従って手術直後に発生したイレウスのHBO治療はやや長期にわたり持続する必要があると判断された。例えば胆摘出術後に発生したイレウスの解除手術後に再度発生したイレウスの症例とか初回の開腹時に腹膜炎の所見が強く再度の手術施行は難しいと判断された症例にいずれも良好な結果を得た。しかし、これらの症例ではレ線像上のガス像が貯溜遷延しHBO持続の決定は微妙で困難であった。HBO無効例は癌の再発2例、絞扼性イレウス2例、癒着の強い症例2例、中止症例2例であった。

【結語】 HBOは手術後イレウスに有効であり、いわゆる癒着性イレウスについては30/36例(83.3%)に有効であった。また、発生からHBO治療スタートまでの日数が治療効果に影響すると考えられ早期のHBO開始が重要と思われた。